

平成30年度 大学院経営管理教育部（専門職学位課程）

入学試験問題（一般選抜）

【会計学】

第1問

買入のれん（企業結合によって生じたのれん）の会計処理を巡って国際的な論争が繰り広げられている。日本の会計基準において、企業は規則的償却をした上で、必要であれば減損処理をすることを求められるが、国際会計基準（IFRSs）においては、規則的償却は求められず、減損処理（最低、年に一度減損テストを行う）のみが要求されている。

買入のれんの会計処理について、以下の設問に答えなさい。

1. 買入のれんを規則的に償却する会計処理の理論的な根拠を述べなさい。
2. 買入のれんを減損処理する会計処理の理論的な根拠を述べなさい。
3. 国際会計基準がのれんの規則的償却を禁止しているのはなぜか説明しなさい。
4. 買入のれんについて、減損損失が計上されるべき時に、減損損失が計上されなかったり、遅れたりする理由を述べなさい。また、減損損失の計上が率先して行われるのはどのような時かを予想して説明しなさい。

平成30年度 大学院経営管理教育部 (専門職学位課程)

入学試験問題 (一般選抜)

【会計学】

第2問

管理会計における結果コントロール (result control) と行動コントロール (behavioral control) について、以下の設問に答えなさい。

1. 結果コントロールとはどのようなコントロール概念か、具体例をとりあげて簡潔に説明しなさい。
2. 行動コントロールとはどのようなコントロール概念か、具体例をとりあげて簡潔に説明しなさい。
3. 結果コントロールを利用することが望ましい状況を説明しなさい。
4. 行動コントロールを利用することが望ましい状況を説明しなさい。